



新たな役員を選出した大崎法人会定時社員総会

新会長に早坂氏

大崎法人会 任期満了で役員改選

大崎法人会の第14回定時社員総会が5日、大崎市古川のアインパルラ浦島で開かれ、任期満了による役員改選で新たな理事、監事を選出し、途中開いた理事会で新しい会長に早坂竜太筆頭副会長（古川土地社長）を選んだ。

総会では2024年度事業報告、25年度事業計画と予算報告を了承。昨年度収支決算案を原案通り可決し、任期満了に伴い新たな理事、監事を選任した。本年度事業では税知識普及のための事業、地域社会発展に貢献する「大崎福祉まつり」開催などに取り組むことなどを計画した。

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 敬称略）
（任期2年。新は新任。
新役員は次の通り。
▽会長Ⅱ早坂竜太
▽筆頭副会長Ⅱ
佐藤充秀（新）▽副会
所、新）、松倉善輝（松 | 長Ⅱ中鉢和二郎、高橋
誠也、高橋和宏、堀健
太郎（新）、今泉信吾
（新）
▽理事（古川）Ⅱ西
巻英明（ニシマキパピ
ルス）、佐藤充秀（三
本木衛生興業）、高橋
和宏（仙北製材所）、
早坂竜太（古川土地）、
今泉信吾（美研）、鈴
木隆夫（富久屋）、操
義克（操工務店）、荒
井純（アグロ宮城）、
齋藤裕樹（大崎タイム
ス社、新）、菅野浩一（カ
シノ時計店、新）、松
村公博（片平会計事務
所、新）、松倉善輝（松 | 倉、新）▽同（加美）
Ⅱ高橋伸幸（カーサポ
ート高橋）、高橋毅（小
野田建設）、菅原正人
（菅原造園）、今野恭佑
（早坂興業）、原裕一郎
（原正）▽同（遠田）
Ⅱ及川毅（丸文建設）、
伊藤恵美（フジヒロ）、
安部文秋（日本商事、
新）、大友新（穂乃香
新）、遠藤秀春（木材
スーパーエンドー、新）
▽同（玉造）Ⅱ中鉢和
三郎（鳳商事）、高橋
聖也（勘七湯）、中鉢 | 一樹（東北舗道建設）、
佐々木壽彦（壽）、真
山隆宏（まやま）▽同
（大崎）Ⅱ佐藤祥温（白
蘭わた、戸村恵一（戸
村工務店）、只埜康治
（松山産業）、高橋茂樹
（シタ電工）、堀健太郎
（ホリマン）、尾出恵一
（オイデック）、鈴木慎
一（ホンダバイパス鈴
木、新）▽監事Ⅱ中本
奈美（エヌアンドエ
ヌ）、草刈宏明（ハイ
フィールド税理士法人
大崎事業所）、橋本哲
見（斗雲稲荷神社、新） |
|--|--|--|--|

大崎市福浦土地区画整理組合

区画整理事業が完成

設計は国際開発コン、施工は古川土地

大崎市福浦土地区画整理事業の完成式が25日、大崎市のアインパルラ浦島で行われ、事業に尽力した関係者約55人が節目を祝った。

同事業は、定住促進と住環境の向上を目的に新たな市街地の形成を目指して進められた。2020年12月に大崎市福浦土地区画整理組合（佐藤久男理事長）の設



関係者一同で記念撮影

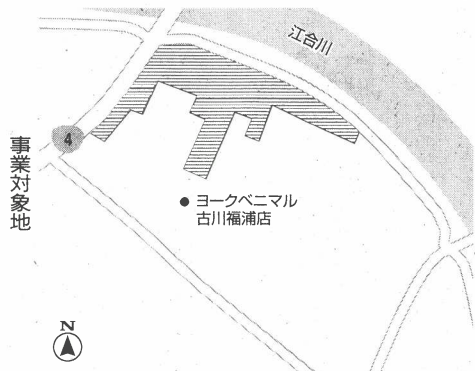
立が認可され、21年3月に工事が始まり、約4年をかけて完了した。設計は国際開発コンサルタンツ、施工は業務代行者である古川土地（早坂竜太代表取締役）が担当した。

施行者の佐藤理事長はPRで使用された「福が生まれる住宅地」という表現を引用し、「これからもさらにこの住宅地と皆さまにも福が訪れますように」との願いを込めてあいさつした。

来賓として出席した伊藤康志大崎市長は「地域の公園、上下水道、調整池などのインフラが一体的に整備され、下流域に対しても配慮した極めて優れた事業」と評価し、「この事業が住民主導により推進されたということに感謝する」と事業完了を祝った。

業務代行者の早坂代表取締役は「最終的に住宅が立ち並び、新たな家族の絆が生まれ、地域が活性化していくことを期待している」とし、「組合員の皆さまが次世代のためにこの事業を推進されたことに価値がある」と関係者への敬意を表してあいさつを締めくくった。

施行地区は、大崎市古川福浦三丁目および古川福浦字新大谷地の一部。区域面積は約3・2ヘクタールで、北側を江合川、西側を国道4号（都市計画道路米袋荒谷線）が接し、周辺は市街地に囲まれている。総事業費は約4億9980万円。区域内は住宅地として整備され、計112戸・約280人の居住を見込む。



大崎市古川福浦3丁目地区の土地画整理事業が終了したため25日、同市内で事業完了式、祝賀会が行われた。組合員や地権者、市や県の関係者など54人が出席して完了を祝ったほか、同区画整理組合（佐藤久男理事長）が、業務代行・施工を担った古川土地（大崎市・早坂竜太代表取締役）に感謝状を贈った。調査・設計は国際開発コンサルタンツ仙台支店（仙台市青葉区）が協力企業として担当した。

大崎市福浦土地画整理組合 古川土地

区画整理事業の完了祝う

江合川と接するこの地域はかつて優良な農地で、昭和50年代ごろまで稲作や畑作で栄えた。その後、国道4号の開通、周辺地域の宅地開発、工場の立地などで農業環境に変化が生じた。農家の高齢化、就農者の減少でここ数年は事業対象の約3・2haのうち、およそ半分が作付けしていない状況となっていた。

打開策を探ろうと発起人を中心に2018年ごろから勉強会を実施し、地権者の同意を得て20年に同組合が発足。住宅112戸、市道・公道計1223・2m、公園、排水ポンプ2基を備えた防災調整池、地下貯留槽、上下水道を整備することになった。21年3月に着工し、24年中に完了した。市は認可、補助金支給などで携わった。



感謝状を受け取る早坂代表（左）

事業完了式典で佐藤理事長は「何も分らない状態から始まり、古川土地への一括代行方式で無事にここまで進んでこられた。この住宅地は江合川と隣接して環境が良く『福を生む住宅地』のキャッチフレーズで販売してもらっている。住む皆さんに福が訪れることを祈っている」と述べた。

事業は「次世代への英断」 古川土地に感謝状



事業完了を祝い記念撮影

発は行き止まり道路や公園、調整池の未整備などの課題があるが、このように完成し感謝している」とし、同事業が人口減少対策につながることに触れた。

福浦地区

3.2haを宅地整備

とを紹介した一方で、人口減少について「良い宅地がなければ人口が流出し、若者が他の地域に移れば、地域経済が縮小する。こういった視点から地権者の皆さんが次の世代のためにこの事業を英断された」と評価。「住宅が立ち並び、地域が活性化することを願っている」と期待を込めた。



「組合、行政との約束を果たすことができた」と語り、事業完成を喜ぶ早坂社長

古川土地 早坂 竜太社長

子育て世代の交流期待

大崎市福浦土地区画整理事業は古川土地が業務代行者となり、民間主体により開発が進められた。行政の事業計画のない中、地権者と同社が白紙の状態から計画を進め、農地を宅地へとよみがえらせた同事業。早坂竜太社長に業務代行を引き受けた経緯や事業の意義など話を聞いた。

「福浦区画整理事業、い、経済効果の面でも完了し、区画整理組、貢献できたと思います」。合は解散となり、事業を振り返り、現在の思いはいかがですか。

「事業が終了する運びとなり、組合、行政との約束を果たすことができた。住宅が建ち、家族が生活し、経済活動ができてこそ、本当の成功です。また、コンクリート二次製品、盛土、上水道などさまざまな業種の方々に携わってもら

いた土地の開発に対する地権者の思いとマッチしたからで、事業を決めた地権者の英断を誇らしく思い、市の支援に感謝しています。人口減といった地域課題の解決に注力することとは、会社の使命。税収増、若者の定住による活性化に貢献できた」

「民間主体の事業となった経緯は。」「旧古川市時代、計画されていた大幅地区、小泉地区の区画整理事業が中止となり、行政がリードする区画整理事業は古川地域でなくなったのです。やむを得ない部分はありますが民間がそれぞれミニ開発を進め、均整あるまちづくりのために

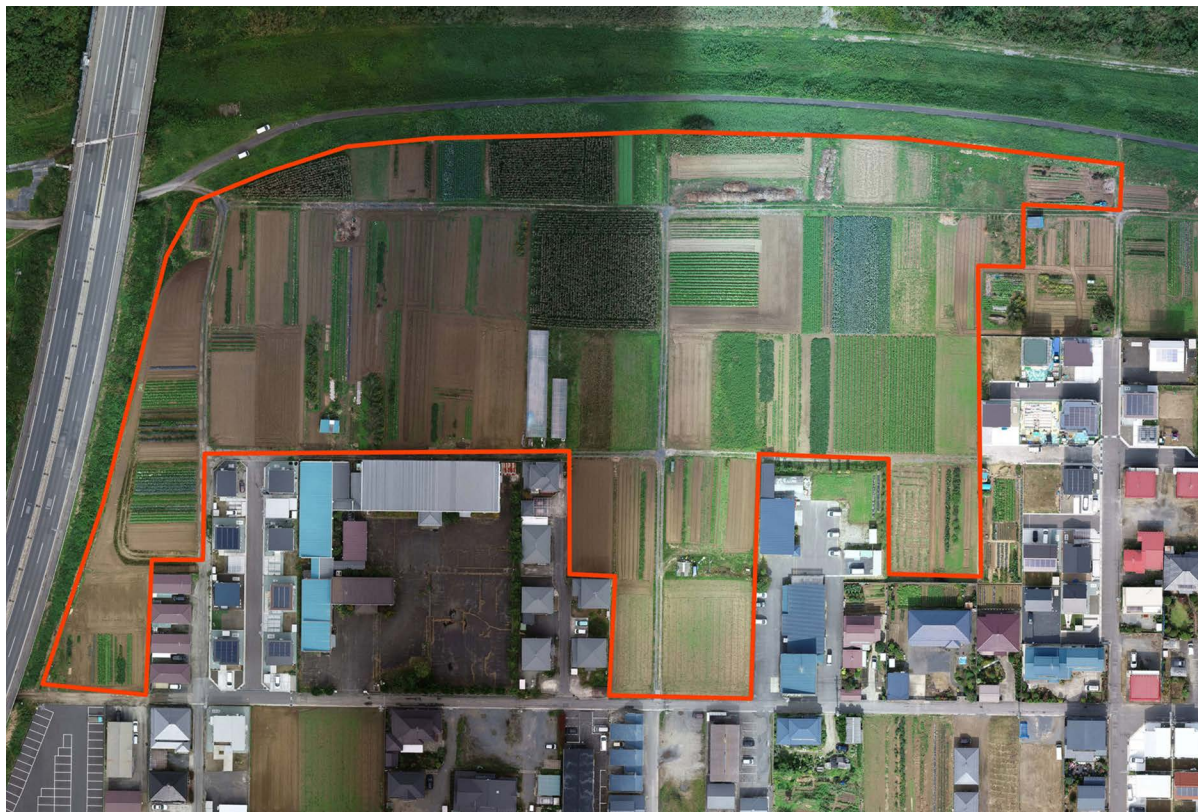
区画整理が行われた宅地では住宅が建てられ、入居も進んでいる。要で、工場誘致などでも後れを取ってしまうのではない

「課題もありました」。事業を進めるに当たり思い出深いことはありますか。

「手弁当の形で事業の可能性を調査するところから始まり、行政の計画のないまったく白紙の状態からのスタートで、労力はかなり大きかった。農地転用で苦勞もありました。法の運用は柔軟性が必ず期待しています」

未開発畑地在優良宅地に

- 大崎市福浦地区ではシャガイモやダイコンなどが栽培され、東京や大阪の市場に車で出荷していた時代もあった。国道4号古川バイパスが開通し地区内は宅地化、工場進出が進んだが、そのうち開発から取り残された江合川堤防沿いの畑地が区画整理で優良宅地に生まれ変わった。着工前の状況や工事の様子を写真(古川土地提供)で振り返る。



事業前の、畑地が広がる区画整理区域(黒線内)。写真左(西側)を国道4号古川バイパス(上が栗原市方面)が通過

江合川堤防上から見た工事中の区画整理地区



道路を整備し、宅地の造成が進められた



工事中の区画整理地内

■防災調整池・地下貯留施設

台風やゲリラ豪雨などの水害・治水対策

地下につくる水空間。
積水化学工業㈱製

プラスチック貯留材
クロスウェーブ

地域貢献の道を拓く



旭洋設備工業(株)

代表取締役 及川 博之

本社：仙台市青葉区中山8-9-5
TEL.022-279-0322 FAX.022-279-0346
<https://kyokuyo-co.co.jp>

■上水道工事

業務内容

土木、上・下水道設計施工(特-3)第7278号

株式会社 協和クリエイト

代表取締役 木村 重治

大崎市古川穂波4丁目3-3
TEL.0229-22-4800(代) FAX.0229-22-4300

■広告

AD PLANNING

加藤 雄一

■盛土工事

株式会社 丸サ工業

代表取締役 佐藤 昭彦

大崎市古川小野字沢田23-5 TEL.0229-28-3112

■調査・設計

共に始めよう。
未来に継がれるまちづくり



IDEC 株式会社 国際開発コンサルタント
INTERNATIONAL DEVELOPMENT CONSULTANTS CO., LTD

仙台支店

仙台市青葉区一番町1-5-25 パークホームズ1番町1丁目
TEL.022-225-6201 FAX.022-261-4630

■下水道工事

豊かな生活環境を提供する

株式会社 カネイ建設

代表取締役 伊藤 一利

大崎市古川柏崎字大町223
TEL.0229-26-2471 FAX.0229-26-2430

■舗装工事

業務内容

土木工事・舗装工事

丸眞工業株式会社

代表取締役 白石 十一

宮城県黒川郡大衡村大衡字沢目49-1
TEL.022-345-5550 FAX.022-345-5500

ふるさとの未来のために

～人材育成への取り組み～



古川工業高建築科生 日本語学校学生寮見学



古川工業高建築科生 市民病院現場見学会



古川工業高建築科生 大崎広域消防本部現場見学会



東大生 体験活動プログラム(中央クリーンセンター見学) 東大生 体験活動プログラム(古川土地にて「自然との共生について」)



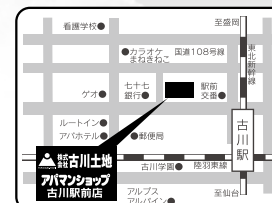
武蔵野大生 世界農業遺産大崎耕土工工ツアー



昭和47年創業

株式会社 古川土地

代表取締役 早坂 竜太



TEL.0229-23-8484

コンクリート二次製品の製造販売



株式会社 ホクエツ宮城

宮城営業所／登米市南方町実沢45-1
TEL.0220-58-2221
仙台営業所／仙台市青葉区五橋1-5-3
TEL.022-268-2811

<https://www.hsnet.co.jp>

■コンクリート二次製品

横江コンクリート
株式会社

YOKOE

代表取締役 横江 寛明

【本社・工場】

大崎市三本木蟻ヶ袋字混内山15-1
TEL.0229-52-3935 FAX.0229-52-2321

土地区画整理事業完了

古川福浦 25日関係者出席し式典

大崎市福浦土地区画
整理事業が終了し、完
了式が25日午前11時か
ら、大崎市古川李埜の
アインパルラ浦島で開
かれる。関係者ら約50
人が出席し、業務代行
者として事業を推進し
た古川土地（早坂竜太
社長）に感謝状を贈る
など、事業の完成を祝
う。

区画整理事業は、大
崎市古川福浦3丁目な

ど3・2分（地権者34
人）の畑地で進められ
た。2020年12月に
大崎市福浦土地区画整
理組合（佐藤久男理事
長）が市の認可を受け
設立され、21年3月に
工事を開始。112戸
分の宅地を造成した。
新たに造られた宅地に
は住宅が建ち、入居も
進んでいる。

事業は古川土地が業
務代行者となり、民間

主体で行われた。同社
が事業資金を立て替
え、造成工事を実施。
組合は同社などに保留
地（宅地）を売却し、
19日付で解散、事業を
終了した。同社は宅地
売却を進め、投資資金
を回収する。

完了式には組合や伊
藤康志市長ら関係者が
出席。佐藤理事長のあ
いさつ、事業概要の説
明があり、感謝状を贈



宅地に生まれ変わった区画整理地内では、住宅の建築が進んでいる

呈する。式典終了後に
祝賀会を開き、乾杯し
（6、7面に企画特集）。

あなたをのせて夢をのせて

陸羽東線の応援歌完成

ローカル線にのって

作詞 四恩

作曲 鎌倉亜紀子

歌 鎌倉亜紀子

桜色の空に あこがれ抱いて
最寄り駅から ひとり汽車にのる
となりに座った おばあさんの
古里なまりに 母を思えば
線路つたいに 菜の花がほほえむ
巡る季節のなか 泣いたり笑ったり
生きてることが 今のキセキ
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります
宿の坂をおりて 歩いたこの道
岸辺に釣りびと アユは釣れますか
水草ゆらめき 躍る光り
だじな景色が ここにあると
風はささやく 旅人の心に
巡る季節のなか 助け合い譲り合いは
やさしき愛の 贈りものね
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります
無人駅のホーム 乗り込む学生
おしゃべり花咲く 今が青春(はる)ですね
誰かが指差す 車窓(まど)の向こう
田んぼで手を振る 父に似た人
なぜか嬉しく 頑張れる気がして
巡る季節のなか 晴れた日も雨の日も
成り行きまかせ 花も人生(ひとも)
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります
あなたをのせて 夢をのせて
陸羽東線 今日も走ります

あなたをのせて／夢をのせて／陸羽東線／
今日も走ります。利用客が減少傾向のJR
陸羽東線(小牛田―新庄)に再び脚光を浴び
せようと、大崎市の住民有志が応援歌を完成
させた。市は鉄路活性化につなげたい考え。

大崎の市民有志制作

題名「ローカル線に と、望郷の念」も込め
のつて」。市内に住む
ペンネーム「四恩(し
おん)」こと早坂幸子
さんが作詞を手掛け
た。車窓からのぞく四
季折々の美しい景色や
乗降する人々の姿を生
き生きと表現。「自分
自身の古里の思い出

たという。

作曲と歌は楽曲制作
で何度もペアを組ん
できた音楽講師の鎌倉
亜紀子さんが担当。3月
28日、手話が得意な友
人の會田征子さんと3
人で市役所を訪れ、手
話付きの生歌を披露し

伊藤市長に歌詞と楽譜を手渡す早坂さん(右
から3人目)ら



た。ゆったりとした曲
調は、のどかな雰囲気
漂う陸羽東線のような
市が催す沿線イベン
トで一般市民や列車利
用客に歌をお披露す

い」と拍手を送った。
「いつもの駅から乗
る人、通勤通学の人、
旅をする人たちを乗せ
て列車が走っていくイ
メージを浮かべて」と
早坂さん。鎌倉さんと
會田さんも交え「たく
さんの人に陸羽東線の
魅力を知ってもらえ
ら」と口をそろえた。

る計画も。伊藤康志市
長は「すてきな歌で陸
羽東線に乗っている気
分になった。市民にも
広め、みんなで鉄路の
存続を応援していきた

日本語学校へ100万円

古川土地「留学生ケアに」と寄付

不動産建設業の古川土地（大崎市古川）は3月28日、市立おおさき日本語学校の運営経費として現金100万円を同市に寄付した。公設公営で全国2例目、認定日本語教育機関として初となるおおさき日本語学校を巡っては、同社の早坂竜太社長個人が事業者公募に応じる形で学生寮を整備。会社側と協力企業、市の支援で寮の管理運営までを担う。寮はJR古川駅近くに3月24日、開所した。市役所で贈呈式があり、早坂社長は「大崎市の果敢な挑戦に共感し、私個人、さらに会社としても事業に関わった。初めてのことで想定外もあると思う。留学生のケアに役立ててほしい」と語った。伊藤康志市長は「県と市の連携事業を企業や団体、市民の皆さんに支えてもらい、全国注視の中で成功モデルをつくっていく。（早坂社長に）志高く先鞭をつけていただいた」と感謝の言葉を述べた。



市役所での贈呈式

大崎の早坂さん、鎌倉さんが応援歌制作

利用者の減少で存続が危ぶまれているＪＲ陸羽東線（小牛田―新庄間）に関心を持ってもらおうと、大崎市民有志が応援歌「ローカル線にのって」を制作した。市はイベントなどでの披露のほか、車内放送への活用を検討する。

鉄道の足元

@東北

作詞は「四恩」のペンネームで活動する同市の早坂幸子さん。車窓に流れる懐



市役所を訪れた早坂さん（中央）、鎌倉さん（右から2人目）会田さん（右端）

古里の記憶優しく表現

かしい風景、人々の温かさ、父母の記憶などを優しい言葉に織り込んだ。作曲と歌は同市の音楽講師鎌倉亜紀子さん。ゆったりとしたメロディーとピアノの伴奏で、ローカル線への愛着を表現した。

2人は3月28日に市役所を訪れ、友人で同市の会田征子さんの手話とともに歌を披露した。

早坂さんは「陸羽東線が走る日本の原風景を歌詞にした。一人でも多くの人に利用してもらい、未来につながるってほしい」と説明。

鎌倉さんも「歌詞が大切に伝わるようにと作った。いろいろな地域の人に聞いてもらい、歌ってもらいたい」と話した。

伊藤康志市長は「すてきな歌で陸羽東線に乗っている気分になった。応援歌としてみんなの宝にしたい」と感謝した。

歌って乗って陸羽東線

桜色の空に あこがれ抱いて
最寄りの駅から ひとり汽車にのる
となりに座った おばあさんの
古里なまりに 母を思えば
線路づたいに 菜の花がほほえむ
巡る季節のなか 泣いたり笑ったり
生きてることが 今のキセキ
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります

宿の坂をおりて 歩いたこの道
岸辺に釣りびと アユは釣れますか
水草ゆらめき 躍る光り
だいじな景色が ここにあるよと
風はささやく 旅人の心に
巡る季節のなか 助け合い譲り合いは
やさしき愛の 贈りものね
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります

無人駅のホーム 乗り込む学生
おしゃべり花咲く。今が青春ですね
誰かが指差す 車窓の向こう
田んぼで手を振る 父に似た人
なぜか嬉しく 頑張れる気がして
巡る季節のなか 晴れた日も雨の日も
成り行きまかせ 花も人生も
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります

あなたをのせて 夢をのせて
陸羽東線 今日も走ります

◇ローカル線にのって作詞 四恩／作曲・歌 鎌倉亜紀子◇

大崎の日本語学校へ100万円

地元建設業者、市に寄贈

不動産建設業の古川土地（大崎市）は、市が開校した「おおさき日本語学校」の運営経費として100万円を市に寄付した。

早坂竜太社長はJR古川駅近くに学生寮を整備する市の事業者公募に応じ、市有地を無償で借り受けて建設工事を実施。3月24日に開所式を迎えた。市が同社など協力事業者とともに運営に当たる。

市役所で3月28日に贈呈式があり、早坂社長は「市の取り組みに共感して携わった。初めてのことで想定外もあると思うが、学生の

ケアなどに少しでも役立ててほしい」と話した。

伊藤康志市長は「国を代表する成功モデルにした。地元からの応援に先鞭をつけていただいた」と感謝した。

株式会社古川土地様からの 寄附金贈呈式



伊藤市長に目録を手渡す早坂社長（右から3人目）

ふるさとを積極支援

首都圏大崎連絡協が総会

「首都圏大崎連絡協議会&大崎ネットワーク第18回総会」が3月22日、東京都台東区で開かれ、ふるさと支援に積極的に取り組むことを確認した。

首都圏大崎連絡協議会(草刈文幸会長)は、大崎市内各地域の首都圏在住者団体や、大崎市内高校出身同窓会な

どの連合組織。大崎ネットワークは大崎市にゆかりのある人々の団体で、代表は草刈首都圏大崎連絡協議会長が兼ねている。

総会には約60人が出席。草刈会長は「積極的に大崎の行事に参加し、ふるさとを応援したい」とあいさつ。会計報告が行われ、出席

者が承認した。

来賓として出席した伊藤康志市長はあいさつで、市立おおさき日本語学校の開設など市の取り組みや市の現状を伝えた。

また、古川女子高(現古川黎明高)出身で、元女子プロボクシング世界5階級王者の藤岡奈穂子さんが講演。引

退後、講演やパーソナルトレーナーの活動を行っており、この春からは大学院に進んで研究活動に取り組むことなどを報告した。

また、首都圏大崎連絡協議会顧問の早坂竜太古川土地社長が、大崎市の話題が掲載された新聞記事を冊子にまとめて配布し、ふるさととの動向を出席者に紹介した。

総会後は懇親会が開かれ、大崎の地酒で乾杯して親睦を深め合った。



東京都台東区で開かれた総会

廃校を公立の日本語学校に

さらに一歩進んだ試みも出てきた。公立の日本語学校を設立し、地方創生の柱のひとつにしようという取り組みだ。

宮城県の北西部に位置



する大崎市。人口減少が進む約12万人の街に4月、「市立おおさき日本語学校」が開校する。国内で2番目の公設公営の日本語学校となる。

校舎は、廃校になった小学校を県の支援金や国の交付金を使って改修し

「おおさき日本語学校」の図書室には漫画も並ぶ。鈴木俊光校長は「地域に愛される学校に」と言う。11月10日、宮城県大崎市、織田一撮影

た。生徒は18歳以上の外国人が対象で、教育課程は1年、1年6カ月、2年の3コースある。入学時の校納金は88万、170万円で、市が半額程度を補助し、補助金の8割は国の特別交付税だ。

先や卒業後の就職先として校の生徒をさらに増やして地元企業の紹介を予定。大崎市の訪問といった割合は列車の時刻表を踏まえてつくった。

(永井啓子、織田一)

最初の入学生は約30人を予定。「卒業生の地元の寮から列車で通学する。利用するJR陸羽東線は赤字が深刻だ。沿線には鳴子温泉などがあり、廃線になると打撃が大きい。市は、日本語学

「多文化共生」実現へ

市立おおさき日本語学校開校

大崎市は24日、認定日本語教育機関「市立おおさき日本語学校」の開校式を現地（旧西古川小川同市古川保柳）で開いた。4月初旬からベトナム、インドネシア、台湾の留学生計28人を迎え入れ、同日には入学式も行う。

学生寮の開所式も



開校式で校名板を披露する伊藤市長と鈴木俊光校長

公設公営としては北海道東川町に次ぐ2例目で、国の新制度（昨年4月施行）下では全国初めて。三つの教育課程（2年、1年6カ月、1年）があり、初年度定員60人。残る32人も10月入学で募集して満たす構え。3年目に90人、5年目に100人が目標という。

日本語教育を施すだけでなく、人口減少時代の活力維持、国籍や民族が異なる人が共に生きる「多文化共生」社会の実現、廃校活用モデル化を目指す。さらにはJR古川駅近くに学生寮を置き、陸羽東線での通学（古川―西古川間）を前提とすることで鉄路活性化の狙いも。県との「二人三脚」ぶりも目立つ。開校までの事業費約3億2000万円の大半が県補助金で、継続的財政支援も約束。留学生集めも県の現地サポートセンターが担っている。式には市と県の関係者、地域住民ら約90人

が出席。あいさつで、伊藤康志市長は『新しい創造』が学校の理念。留学生が大崎市に愛情を持ち、卒業後も第二の古里として地域活力の一翼を担ってもらえることを願う」と語り、村井嘉浩知事は「地域の皆さんも留学生を住民として受け入れてほしい。県もしっかりとサポートする」と祝辞を述べた。同日は開校式に先立ち、民間活力導入による学生寮「Oneness Court」と、楽・持（ワンネスコートわらじ）（同市古川中里）の開所式もあった。個人で建設費を負担し、維持管理も担う

市との「二人三脚」を強調する村井知事

学生寮開所をテープカットで祝う関係者



早坂竜太さん（古川土地区画整理組合）は「地元大崎と、宮城県への恩返し」と、次の時代を担う子どもたちや留学生への

3月末完成見込み。

宮城・大崎市が日本語学校開校式典

宮城県大崎市が外国人留学生向けに設置する「大崎市立おおさき日本語学校」が24日、開校式典を開いた。伊藤康志市長は「2年半を費やして準備を進めてきた。多文化共生社会の実現に向けて、異文化交流の拠点となる日本語学校と学生寮が果たす役割は大きい」と述べた。日本語学校は4月に開校予定で、初年度は台湾やベトナム、インドネシアから28人が入学する。

式典に先立って公開された学生寮は、2階建て延べ床面積は約1600平方メートル。約60の居室とリビング、キッチンなどがある。

「留学生の第二の古里に」



①開校式で校名板を手に持つ鈴木俊光校長（右）と伊藤市長
②テーブルカットで学生寮の開所を祝う関係者

多文化共生へ関係者決意



学生寮も開所

1年6カ月、2年、計60人の入学を想定し、現在は10月に入学する残り32人を募集中。5年後には100人を目標とする。

開校式に先立ち、民間事業者が市有地を無償で借り受け、JR古川駅に近い同市古川中里に整備した学生寮「Oneness Court（ワンネスコート）和・楽・持」の開所式もあり、約70人が出席した。

今回は1棟目として60人分の居室を整備。留学生の増加に対応して40人分の2棟目を建設する。事業者の早坂竜太氏（古川土地社長）は「地域への恩返し、子どもたちや留学生への恩送りとして、しっかりと運営する」と宣言した。

1年間の無災害誓う

大崎市建親会 会員出席し安全祈願祭

大崎市建親会（高橋克幸会長）の工事安全祈願祭が1月30日、大崎市土川のアインパルラ浦島で開かれた。会員の建設業経営者らが



玉串をささげ無災害を誓う高橋会長

出席して神事を行い、ことし1年間の無災害を誓った。

祈願祭には会員のほか伊藤康志市長、関係者合わせ約100人が出席。神事では同会の

早坂竜太副会長が「労働災害ゼロ実現へ全員の英知を結集し、一層努力する」とする宣言文を神前で読み上げ、伊藤市長や高橋会長らが玉串をささげて安全を祈った。

引き続き新春祝賀会があり、高橋会長は「無災害へ労使一体で取り組む。災害対応など、会の存在意義を今まで以上に発信していきたい」とあいさつ。来賓

として出席した伊藤市長は「1年間穏やかに、無災害であることを祈る」と祝辞。今夏の参院選に自民党から立候補予定の石川光次郎元県議会議長が祝いの言葉述べた。

その後、乾杯して祝宴に入り、同会や地域の発展を祈った。

昨年、古川労働基準監督署管内で発生した労働災害（休業4日以上）のうち、建設業の死傷者は39人で前年比15人増加し、1人が亡くなった。

警察活動各分野で協力

古川署 9団体と37人に感謝状

古川署は15日、警察活動各分野の民間協力者に対する感謝状贈呈式を署内で開いた。

新春恒例の取り組み

で今回は9団体、37個人が対象。高橋誠署長は謝辞で、管内における2024年中の刑法犯認知件数と人身交通事故がともに前年より増えた一方、凶悪犯罪の早期検挙や交通事故の総数減など警察活動での成果を振り返り「地

域に寄り添い、安全安心な社会実現に向けて署員一丸となり全力を尽くす」と力を込めた。

被表彰者・団体は次の通り。(敬称略)

▽団体Ⅱイオン古川店、岡本病院、倉島本店、ヨークベニマル古川店、警察犬松本訓練所、三本木特殊詐欺なくし隊、JR東日本古川駅、大崎市防犯実動隊古川分隊第10班、き

むら▽個人Ⅱ伊藤淳、伊藤孝之、尾出恵一、

太田司、大田良一、大

場卓、大場政由、大場

緑郎、金原温、工藤克

彦、佐々木謙次、佐々

木誠子、佐々木哲朗、

佐々木眞、佐藤俊一、

佐藤優子、末永俊一、

鈴木克春、瀬戸弘、高

橋弘、高橋政幸、千坂

宏、千葉君夫、千葉光

弘、千葉基、一階堂和

子、沼田勝、早坂政昭、

早坂竜太、平野和則、

本郷輝朗、松本進、三

浦能壽、味上初、宮崎

英行、宮下英士、柳川

孝行



一人一人に感謝状を手渡す高橋署長(古川署提供)